

## 令和4年度 第1回 碧南市図書館協議会 会議録

### 1 日時

令和4年7月14日（木）午前10時～午前11時30分

### 2 場所

碧南市芸術文化ホール 2階 楽屋6、7

### 3 出席者及び欠席者

#### (1) 出席委員

宮本美枝子、浅井久夫、角谷竹虎、加藤智子、蜷川洋一、小島逸男、  
松崎三津江、岩瀬亜美

#### (2) 欠席委員 高橋和宏、三嶋晴子

#### (3) 事務局職員

教育長：生田弘幸、教育部長：岡崎康浩、生涯学習課長：鈴木善三、  
市民図書館館長：大橋幹広、南部分館長：関 由香、  
中部分館長：長谷川有里、市民図書館副館長：長田和子

### 4 傍聴者

0名

### 5 協議会内容

#### (1) 教育長あいさつ

#### (2) 会長あいさつ

#### (3) 自己紹介

#### (4) 議題

① 令和3年度図書館の事業実績について

② 令和4年度図書館の事業計画及び関係予算について

#### (5) その他

### 6 会議内容（議題）

#### 【事務局】

まず、令和3年度図書館で行った事業実績に関して、大きな2点について報告いたします。1点目は電子図書に関してです。電子図書については改めて説明は必要ないかもしれませんが、みなさん個々にお持ちのスマートフォンやタブレット端末を利用

して、紙の本を読むようにページをめくる方式で読むことができるものです。当館では昨年（令和3年）11月より貸出を開始しており、近隣6市では安城、西尾について3番目となります。電子図書導入の目的として、次の4つを主な目的として導入をすすめました。

1. 感染症対策して、他人と接触せず本の貸し借りを可能とすること。
2. 24時間利用が可能になるため、開館時間中に来られない方も利用を可能にすること。
3. 多言語対応、文字の拡大、読み上げ機能など障がい者対応を図る。
4. スマートフォンやタブレット端末を使用することで、若い世代への読書推進を図る。

次に、11月から令和4年3月末までの利用貸出等実績について報告します。

「1. タイトル数」ですが、本で言うと蔵書数になります。3月末での蔵書数は3,187タイトル。そのうち、1,532タイトルが販売型といわれる使用期限のないものになります。そして1,635冊が期間限定型という、2年または52回の貸出回数制限ありのものとなります。そのほか独自コンテンツ、これは碧南の広報になりますが、古いものも併せて20点あります。また、電子図書は紙の本のように一般書・児童書という明確な区分がないため、あくまで参考数となりますが、蔵書の割合として多く所蔵している分野としては小説が約1,300冊、子ども対象の本が約590点、家庭・料理系が300点と上位を占めています。

続いて「2. 利用状況」になります。こちらは11月から3月までのログイン数になります。これはホームページにアクセスがあった数ということです。ログイン数が1,519回、貸出数は1,883点、予約数は194点でした。ちなみにログインされる時間帯ですが、お昼の11時から12時、夜の9時から10時の間が多く、少ないのは夜中の3時から4時、4時から5時ということでした。深夜でも見ている人があることがわかりました。

「3. 貸出回数が多い資料」です。これは配布しました年報にも記載がありますが、良く借りられたタイトルは資料の通りとなります。電子図書を導入した効果として、自宅に居ながら図書の貸出・返却ができるサービスが開始できたこと、インターネットを通して紙の本の予約数やホームページ閲覧数も増加する効果がみられました。紙の資料に比べると蔵書点数、タイトル数もまだまだ少ないですが、今後は予算を確保

し、図書館サービスのデジタル化をすすめていきたいと考えています。

2点目として館内のWi-Fi環境の整備をいたしました。こちらは、これまでは図書館の専用端末でしか行えなかった蔵書検索やインターネット検索を、利用者自身のスマホやタブレットを使い、通信料を気にせず利用することができる環境を整備することで、利用しやすい図書館、図書館の利便性向上を図る目的で整備を行いました。刈谷、安城、西尾では既に整備されており、当市では電子図書と同じ令和3年11月よりサービスを開始しています。実績としては、個人のスマホ等での利用となるため、利用数など具体的な数値はありませんが、館内の指定エリア5か所でWi-Fi通信が可能になりました。

効果として、パソコンを持ち込んで調べものをする利用者も増え、図書館の利便性が向上する成果がありました。

以上が昨年度の事業実績として、大きな2点の報告となります。

それでは、引き続き令和3年度の実績報告をさせていただきます。冊子資料『碧南市の図書館2022』の6ページをご覧ください。こちらは「令和3年度 業務実績の概要」となっております。

まず「(1) 図書館資料の収集」として「ア 図書」と「イ 視聴覚資料」についてご報告いたします。館ごとの蔵書冊数や、蔵書の分類ごとの詳細な内訳につきましては17ページから掲載しております。そちらの表を基にまとめておりますので、あらかじめご承知おきください。

令和3年度に受け入れた図書資料は、購入によるものが9,961冊、寄贈などの購入以外によるものが1,317冊の、合計11,278冊となりました。これに対して、除籍したものが9,737冊で、年度末の図書の所蔵数は542,844冊となり、前年度対比0.3%の増加となりました。

続きまして、視聴覚資料につきましては、購入によるものが134点、購入以外によるものが26点の計160点を受け入れております。これに対して除籍したものが278点で、年度末の所蔵数は19,631点となりました。前年度対比でみると0.5%の減少となります。こちらの減少ですが、古くなりましたビデオテープ等を除籍したものが主なものとなっております。視聴覚資料の種類ごとの蔵書状況は、22ページに詳しい表が記載されておりますのでご参照ください。

次に「ウ 逐次刊行物」でございます。令和3年度は新聞11紙、雑誌216タイトルを受入れました。なお23ページからは受け入れ雑誌の一覧が掲載されておりますが、こちらは令和3年度ではなく、今年度令和4年度に受入している雑誌タイトルとなりますのでご注意ください。

続きまして、冒頭でご説明させていただきました「エ 電子図書」ですが、こちらは3,187タイトルを受け入れしております。

次に「(2) 図書館の利用に関する状況」についてご説明いたします。まず「ア 登録者および入館者数」でございます。登録者、つまり図書館の利用カードをお持ちの方は、48,143人となりました。登録者のうち碧南市民は33,045人で、人口の45.4%の方が図書館の利用者カードを持っていることとなります。昨年度よりも少し数値が上がっております。また、入館者につきましては、延べ196,804人で、前年度対比16.9%と増加しております。これは令和2年度には、コロナウィルスの影響により2か月ほど休館したことや、利用制限、行事の中止などもあり、入館者が大幅に減少しておりました。令和3年度においても、6月の緊急事態宣言や、2月のまん延防止等重点措置の発令等がございましたが、徐々に利用者が戻ってきている状態でございます。

続きまして「イ 利用状況」についてです。貸出利用者数は、延べ128,049人で前年度対比30.3%の増加となっております。こちらでも大幅な回復がみられます。

市内の幼稚園、保育園、小中学校をはじめとした団体貸出は196団体に貸出を行い、その貸出冊数は延べ41,880冊でした。こちらでも令和2年度は、学校の方も休校があったり、団体貸出回数も例年の3回から2回に減っていましたが、昨年は、例年通り学期ごとの実施ができましたので、ほぼ正常に戻ってきております。資料の貸出点数は501,979点で、前年度対比26.9%の増加となりました。こちらでも入館者と同じく、数値が戻ってきている状態となっております。

次に31ページをお開きください。こちらは「予約・リクエストサービスの状況」となっております。令和2年度には、コロナによるサービス制限等があり、運用面での変更もございました。そのうちのひとつとして、一時的に予約できる冊数を10冊から50冊に増やしたこともあり、予約の件数が、令和元年度、2年度は大幅に増えておりました。令和3年度には通常通りの10冊に戻しておりますが、結果としてさ

らに増加、ということになりました。令和2年度では、42,289件、令和3年度では44,693件となっており、前年度対比で5.7%の増加となっております。利用者側としても、来館せずとも予約ができる、ということで、安全面や手軽さからネットからの予約が定着してきたのではないかと思います。また、令和2年3月に図書館システムを更新したことにより、利用期限内であり、次に予約が入っていない資料については、インターネット上から1度限り延長して貸出ができるようになっております。こういったネットを介したサービスが浸透してきているということも、要因の一つではないかと思います。こちらの年報には掲載しておりませんが、図書館ホームページへのアクセス数も、令和2年度の月平均8,452から、令和3年の月平均10,019件と増加しております。このようなインターネットを介した利用は今後も増えるのではないかと思います。

最後に令和3年度の行事について簡単にご説明いたします。34ページをお開きください。

「12 図書館事業実績」となっておりますが、こちらは各館ごとの行事に実績一覧になります。図書館の事業は、おはなし会や各種講座などを通じて、市民をおはなしの世界や読書活動へとつなげること、知的好奇心を刺激することを目的としております。令和3年度におきましても、コロナウィルスの影響により事業の中止や規模の縮小などがございましたが、対応を考慮しながら、令和2年度よりも多くの事業を開催することができました。

まず定例的に行っている「おはなし会」ですが、6月の緊急事態宣言時や、2月のまん延防止等重点措置などの発令から中止としたこともありますが、申し込み制をとり、参加者人数を制限して行いました。工作教室等のその他の行事についても、人数の制限などの安全面に配慮しながら行っています。また、子どもへの読み聞かせを行うボランティアを養成する「おはなしボランティア養成講座」や、目が不自由な方への対面朗読や、音声資料の作成などを行う「音声訳ボランティア養成講座」などの講座につきましても、参加人数を絞るなどして開催することができました。

令和2年度に「おはなし会」が全面的に中止になったことから、家庭で「おはなし会」ができるように、絵本や紙芝居、紙芝居の枠、簡単な工作の素材をセットにした「おうちでおはなし会セット」は、昨年度も継続して提供しており、好評を得ております。そのほか、図書館のボランティア団体である「碧南の図書館友の会」との共催

事業である「音楽と朗読の夕べ」が、会場をお隣の芸術文化ホールに移して開催することができました。

予想以上にコロナ渦が長く続いております。先の見通しがたたない状況ではございますが、状況に応じ、安全面に配慮しながら、今後の事業を実施していきたいと思っております。以上で令和3年度の実績報告を終わります。

#### 【会長】

ありがとうございました。令和3年度の実績ということで、質問があれば出してください。少しゆとりをもって後からでもけっこうです。いかがでしょうか。

(特に意見なし)

それでは次に「令和4年度図書館の事業計画及び関係予算について」をお願いします。

#### 【事務局】

では、令和4年度の図書館予算について説明いたします。資料「碧南市の図書館2022」の14ページをお開きください。

ほぼ例年通りですが、前年度対比で増減のあったものを中心に説明させていただきます。内訳の「10 需用費」が対前年度比 112.1%となっておりますが、これはほぼ本館の修繕料が増額されたものです。増えた内容は、2年に一度行っている軽自動車の車検費用と、地下にある電動式書架が故障したため、修繕を行う費用です。補足ですが、「光熱水費」は中部分館だけの電気料、水道料のみが計上されております。本館の光熱水費は芸文ホール指定管理料の中に計上してあります。南部分館の光熱水費は南部市民プラザ費に計上されております。少し額が少ないと思われる方もあるかもしれませんが、そういった理由です。

次に、「13 使用料及び賃借料」も前年度対比 112.4%となっておりますが、これは、国の機関紙である『官報』を紙媒体から電子媒体へ変更した費用と、電子図書館システムの使用料が昨年の5ヶ月分から12ヶ月分へ増えたものです。

次に工事請負費ですが、昨年度が0で、本年度が2,870万となっております。これは、中部分館の屋根の防水効果が切れておりまして、その防水工事のために臨時についている費用です。

次に「17 備品購入費」についてです。資料購入費がこちらになりますが、今年度の資料購入費は昨年通りとなっております。「その他」のところは76%と若干減っているように見えますが、資料以外の備品を購入するもので、年度によって買うものが異なるため変動いたします。今年度は本館のワイヤレスアンプを購入予定です。

以上で令和4年度の予算の説明を終わります。

続きまして、令和4年度市民図書館事業計画につきまして説明させていただきます。資料の3ページからをご覧ください。

まず、全体として、おはなし会などの定例行事への参加人数などを徐々に増やしていく予定です。また中止した事業、例えば「子ども一日司書」などですが、実施できれば良いかと考えています。では各館の事業計画について説明させていただきます。

本館では、9月18日に三河弁についての講座、11月に「音楽と朗読の夕べ」（図書館友の会と共催）と豆本講座を予定しています。また昨年度、一昨年度と実施できなかったリサイクル本バザーも2月の初めに予定しています。

南部・中部の各分館も定例行事を中心に、夏休み行事、秋の読書月間である「へきにゃごまつり」等の行事を開催していきます。

昨年度、一昨年度と新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、図書館の事業も中止したり規模を縮小したりせざるを得ない状況が続きました。今年度こそはと職員一同意気込んでおりましたが、一時は落ち着いたかに見えた新型コロナウイルスの感染状況もここに来てまた増加傾向にあります。状況を鑑み断念せざるをえない事業も出てくるかと思えます。ただ、これまでと違いコロナ禍の中でも、人数を制限してのおはなし会、持ち帰りできる工作キットの配布、電子図書館のオープン、と事業を実施してきた経験が現在の職員にはあります。こうした経験を糧に、どのような状況になっても、利用者の方々により広く楽しんで頂ける、喜んで頂ける事業を考え実施していきたいと思っています。以上で今年度の事業計画についての説明を終わります。

## 【会長】

ありがとうございました。事業計画まで含めてご質問はありますか。では私の方から。事業計画のところの「1 図書館利用促進事業」の中で、「(4) 碧南の図書館サービス計画に基づく具体的な取り組みを実施する」については、10年ごとに見

直しをする。「(5) 碧南市子ども読書活動推進計画」というのは、5年ごとに見直すということだと思うが、4年度の計画でいくとどの部分があてはまるのか教えてください。

【委員A】人数を制限して何とか行事を行っていることに對してありがたく思います。しかしながら、募集にあたって、普通ならば「来てください」で済んでいたことが、時節上、希望しても人数制限をしなければならないことも出てくると思う。そういった場合、どのような方法で対応してきたのか、また、市民からはどんなリアクションがあったのか教えてください。

### 【事務局】

まずは、先のご質問からお答えさせていただきます。

図書館では2つの計画を策定していますが、どちらも子どもの年齢に応じた行事を行っています。「おひざにだっこのおはなし会」については、0歳から幼稚園、保育園に入る前の子どもたちと保護者を対象に行っており、「おはなし会」につきましては幼児からということになっています。それから、若い世代は読書離れになってしまう時期なので、勉強では使ってもらっていますが、「図書館っていいな」と思ってもらえるように、本館ではヤングアダルト向けの行事などを行っています。

行事以外のサービス計画の方では、市民の方々は様々な情報を求めて図書館にみえるので、人気のある小説だけでなく、数学の本や料理の本、法律関係など幅広い本を収集しています。

そんないろいろなことを求めてくる方たちに向けて、どうやって資料収集を行っているのか、どうやって本を点検しているのかといったことを同時にサービス計画に載せておきまして、それらの進捗状況につきまして、次回の第2回図書館協議会の方でご報告をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

行事の申し込みや周知につきまして、もちろん図書館内で宣伝いたしておりますが、広報に載せる際に、「行事を行う一週間前の日から受付をします。」と明記させていただいております。その中で、今のところ定例のおはなし会「おひざにだっこのおはなし会」と「土曜・日曜のおはなし会」につきましては、5組でお願いしております。その他少し大きな行事、例えば6月18日に中部分館で行った美術館とのコラボ企画のおはなし会では、少し大きな行事ということで、10組、人数を30名ま

でと制限して行わせていただきました。

本年度につきましては、先ほどもお話しさせていただいたように、今まで定例のおはなし会を5組に限定して行っておりましたが、それを7組くらいに増やしていきたいと考えております。あと、それによる感想ということですが、やはり、小さいお子さん対象の「おひざにだっこのおはなし会」は保護者の関心も高く、5組だとお断りをするケースが残念ながらございます。私たちといたしましては大変心苦しく感じておりますが、今年度は7組に増やしたらどうかという意見が出まして、少し増やすことを検討しております。

補足の補足で恐縮ですが、新しく委員になられた方もおられますので、本日冊子としてお配りしていないのですが、ホームページの方に『碧南の図書館サービス計画』『碧南市子ども読書活動推進計画』の全文が載せてあります。よろしければ参考にご覧いただけるとありがたいと思います。

#### 【会長】

ありがとうございました。他にご質問はありますか。では私の方から。年齢層はどこをターゲットにするのか、年齢に沿ってといった言葉もありましたが、若者は読書離れしていく、しかしデジタルの部分では繋がっていくという部分があると思いますが、インターネットを使っている人の年齢はわからないですね。

#### 【事務局】

確かにデジタル、電子図書を使っている方は、ご家族のカードを使われるケースもあつたりで年齢層は定かではありませんが、一般的にはスマートフォン、タブレット端末を使っているのは若者かなと考えます。統計上では出ていませんが、若者向けのサービスのひとつとして電子図書を考えている一面もあります。

実際、私の子どもも、小さい頃は私が図書館に勤務していることもありまして、読み聞かせとかよくしていたのですが、大学生・高校生ともなりますと、本は読まず毎日スマートフォンばかりです。

#### 【会長】

スマートフォンで新聞も読める時代ですので、図書館とつながれば、年齢の高い

人でも新聞などはつなごうとする。けれども、図書館まで行って本を探す喜びや本の感触なんていう違う喜びもあるので、年の多い層も置いていかないように配慮してください。

**【事務局】**

私もデジタルよりも紙で読みたいなと思う派ですので、デジタルだけでなく紙の方も力を入れていきますのでよろしくお願いします。

**【会長】**

複製絵画を貸出しているのは本館だけですか？ 教職の頃の話ですが、学校で2、3点有名な絵画を飾っておくと子どもたちが集中して見ていたような記憶がありません。団体でも借りられるのでしょうか。

**【事務局】**

まず、複製絵画の貸出ができるのは本館だけです。分館では行っていません。借りられるのは個人はもちろんですが、学校等の単位でもご依頼があれば考えてまいります。今まで学校単位で借りられたことはありますか？

**【会長】**

私は個人でお借りしました。子どもたちにとって身近にこういった資料があることが大切に思います。他に新しい委員の方どうですか？

**【委員 F】**

自分の仕事からの視点となるが、美容と健康の観点からブルーライトを見すぎると肌も老化してしまい、また脳が興奮状態のままになり睡眠にもよくないということがある。家では子どもたちに午後7時以降は見ない、自分たちも暗い部屋で携帯やテレビを見ないように気を付けている。お客様も寝ながら携帯を見られている方が多く、そうすると大切な睡眠を阻害することになる。その辺をお客様にもお伝えをし、携帯を見ることも大切だが健康と美容のためには、紙で本などを見ながらゆっくり寝ることも大事だよとお話させてもらっている。便利だけど裏があることを

伝えていきたいと思う。

#### 【会長】

他にございませんか。

#### 【委員C】

図書館友の会に所属している。最近問題になっているのが、メンバーが年寄りになってきていること。新しい人が入ってこない。それは地元の集まりでも同様。今後は若い人が集まってくるようなことを考えていかないといけない。

2、3日前にLINEを見ていたら、お年寄りが集まるいろいろな趣味のサークルの紹介があった。そういった若い人を引きずり込む、何をやったら図書館のイベントでも若い人が食らいついてくるのかといったことが不足しているように思う。それが友の会のやり手がいないのとつながってくるように思う。

#### 【委員D】

食に関する仕事をしておりまして、子育て世代のお父さんお母さんが、子育てに関して、食べ物について積極的にいろんなことを勉強して、子どもたちにどんなものを食べさせたらいいのかといったことを考える場面が増えているといったことを実感している。

例えば、図書館の中で子育て世代のお父さんお母さん対象の企画をしたら若い世代の人たちに足を向けてもらうきっかけになるのかなと思った。

#### 【事務局】

子育て世代の人たちは、実は図書館利用者の層の中も良くご利用いただいている世代です。お子さんを連れてきてもらうと、その子どもさんが図書館を好きになり、その子どもさんが親になると子どもを連れてきてくれるといった利用が多い。私も4月から何十年ぶりに南部分館に移ったが、20代に勤めていたころの利用者がお母さんになって来てくれていてとても嬉しく思った。

ただ、図書館を子どもの頃に利用しなかった、ほぼ縁がなかった子どもは、図書館は誰でも入れて良いところだということを分からないまま大人になってしまい、

いくら無料ですと言っても敷居が高いと思っている。全く縁がなかった子も多くいるということも分かっている。そういう方に対しては、何か仕掛けをして一度図書館に来てもらう。図書館ってこんなふうに使えるんだということを思っていたきたい。そのためにはどうしたらいいのかな、何か良いアイデアはないのかな、ということのを毎年思っている。またお知恵を貸していただいて、一緒に考えていただけるとありがたい。

### 【委員E】

生徒たちがどのくらい図書館を利用しているのかは調査したことがないのでわからないが、ふと思ったのが、これでコロナが落ち着いてくると、ボランティアが再開されるようになる。中学生を図書館にということになると、例えば中学生ができるボランティア活動があると、子どもたちは喜んで行くようになると思う。読み聞かせなど、人のために役立ちたいといった思いを中学生は持っていて、ボランティアをやりたいといった心がコロナで折られてしまっていて、この間も18人の募集に30人近い応募があった。うまくそういうことができるといいのかなと思う。

もうひとつ、電子図書に興味があったんですが、実際どういうふうにしたら利用できるのかがわからない。先ほど若い世代や子育て世代という話もあったが、なかなか外に出られない時代になってきたので、自分たちのような年代も興味はあると思うので、気軽にやれるならいいなと思う。

### 【会長】

私もガラ携からスマホに替えたが、使いきれない。先日、JAが高齢者向けに使い方の講座を開いているのを見た。興味はあるが一步が踏み出せないところがある。場所とか講師さんがいれば、図書館でもそういった講座を開いたりすると、高齢者も興味を持ってもらえるのではないかと思う。

### 【事務局】

中学生のボランティアについては職場体験で受け入れているが、ここ数年はコロナの影響で中止となっている。お話ではそれ以外にということだと思うが、図書館もそういったことをこちらからお願いしていいのか、中学生が来てくれるのかとい

ったことを、機会があればご相談いただければありがたいと思う。

電子図書についてですが、確かにスマートフォンを持っていても使い方がわからないといった方はいらっしゃると思う。そういった方に『電子図書の使い方講座』のようなことを開催してもいいかと思った。今後検討していきたいと思う。

#### 【会長】

他に、F委員どうですか？

#### 【委員F】

文化協会に入っているが、高齢化が進んで会員が減っている。役員でも「どうしたら若い子を取り込めるか」ということが問題になっている。これといった方法がつかめていない。ただ、行事などは伝えるようにしている。

私も若い頃は共働きで図書館とはなかなか縁がなかった。ただ少し余裕が出てくると、良さも感じられた。若い人たちも忙しいと思うが、参加される中で良さを感じ取ってもらえたらいいと思う。

#### 【委員G】

ちょっと関係ない話になるかもしれないが、終活の一つとして、今思うと後悔していることがある。私たちの若い頃は本に囲まれた生活に憧れていた。高校時代などは読みもしないような本も集めていた。当然読めていないですが。

この年になり、息子たちと同居するにあたってかなりの本を処分した。ずいぶん無駄なお金を使った。年齢からしたら、私たちの時代はそういった環境にあこがれて、自分で本を集める。図書館はあまり利用しなかった。

今は無料で読めるものもある。女房はかなり使っている。社会情勢が変わっているんな本に対する思いも違う。昔は百科事典も自分たちで買っていた。今はスマホの方が新しい情報がわかる。そういうことから考えると、若い世代の人たちに、「本を買え」と言うのではなく、「図書館にあるよ」「こんないい本もありますよ」と言った方がいいように年を取って思う。私の経験から言うと「あんな本買わんでもよかったな」とも思う。そういったことも踏まえて、今後の図書館のあり方みたいなことを考えてもいいかな、もう少し図書館で本を読んでおけばよかったなと今思う。

**【会長】**

そうですね。本に埋もれていることがステイタスのような時代でしたね。また、図書館の方で考えていただくとありがたいと思います。

それでは、一通りご意見もいただいたと思います。これで議題の1と2を終了でよろしいでしょうか。その他ご意見がございましたら。それでは、事務局にお返しします。

**【事務局】**

それでは、5のその他については特にございませんので割愛とさせていただきます。今回の図書館協議会の議題といたしましては以上になります。

次回、令和4年度第2回図書館協議会は3月上旬を予定しております。内容につきましては『碧南市の図書館サービス計画（第二次）』の進捗状況、こちらを昨年度行いました図書館の利用者アンケートの結果をふまえてご報告させていただくことになっておりますので、よろしく願いいたします。

**【会長】**

ありがとうございました。早速、インターネットで本を読めるように手続きしたいと思います。本日はありがとうございました。